古文単語　敬語から主語を読む　②

名前 _____

高校／敬語の種類から、だれの動作か・だれへの敬意かを決める　　日付 _____

尊敬語は「動作をする人」へ、謙譲語は「動作を受ける人」へ敬意を向ける。
敬意を表す人（だれから）は、地の文なら「作者」、会話文・手紙（「」の中）なら「話し手・書き手」。
表に、――線①～⑩の敬語の種類（尊敬・謙譲）、動作をする人、敬意の向き（だれから→だれへ）、意味を書く。
人は記号で答える。意味は、覚えている現代語の訳でよい。

人物の記号　ア 作者　イ 天人　ウ かぐや姫　エ 帝（おほやけ）

場面　月から迎えの天人が来た。天人はかぐや姫に不死の薬と天の羽衣をすすめ、かぐや姫は帝（おほやけ）に手紙を書く。最後の「」はその手紙の文。

ひとりの天人いふ、「壺なる御薬たてまつれ。きたなき所のもの①きこしめしたれば、御心地あしからんものぞ。」とて、持てよりたれば、いささかなめ②たまひて（中略）天人「おそし。」と心もとながり③たまふ。かぐや姫「もの知らぬことな④のたまひそ。」とて、いみじく静かにおほやけに御文⑤たてまつり⑥たまふ。（中略）「かくあまたの人を⑦たまひて留めさせ⑧たまへど、許さぬ迎へまうで来て、とり率て⑨まかりぬれば、口をしく悲しきこと、宮仕へ⑩つかうまつらずなりぬるも、……」（竹取物語）

問1

	種類	動作をする人	敬意（から）		敬意（へ）	意味
① きこしめし				→		
② たまひ				→		
③ たまふ				→		
④ のたまひ				→		
⑤ たてまつり				→		
⑥ たまふ				→		
⑦ たまひ				→		
⑧ たまへ				→		
⑨ まかり				→		
⑩ つかうまつら				→		

問2　⑦「たまひ」と⑧「たまへ」は同じ「たまふ」なのに、意味がちがう。そう決まる手がかりを、それぞれ書きなさい。

⑦

⑧

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます